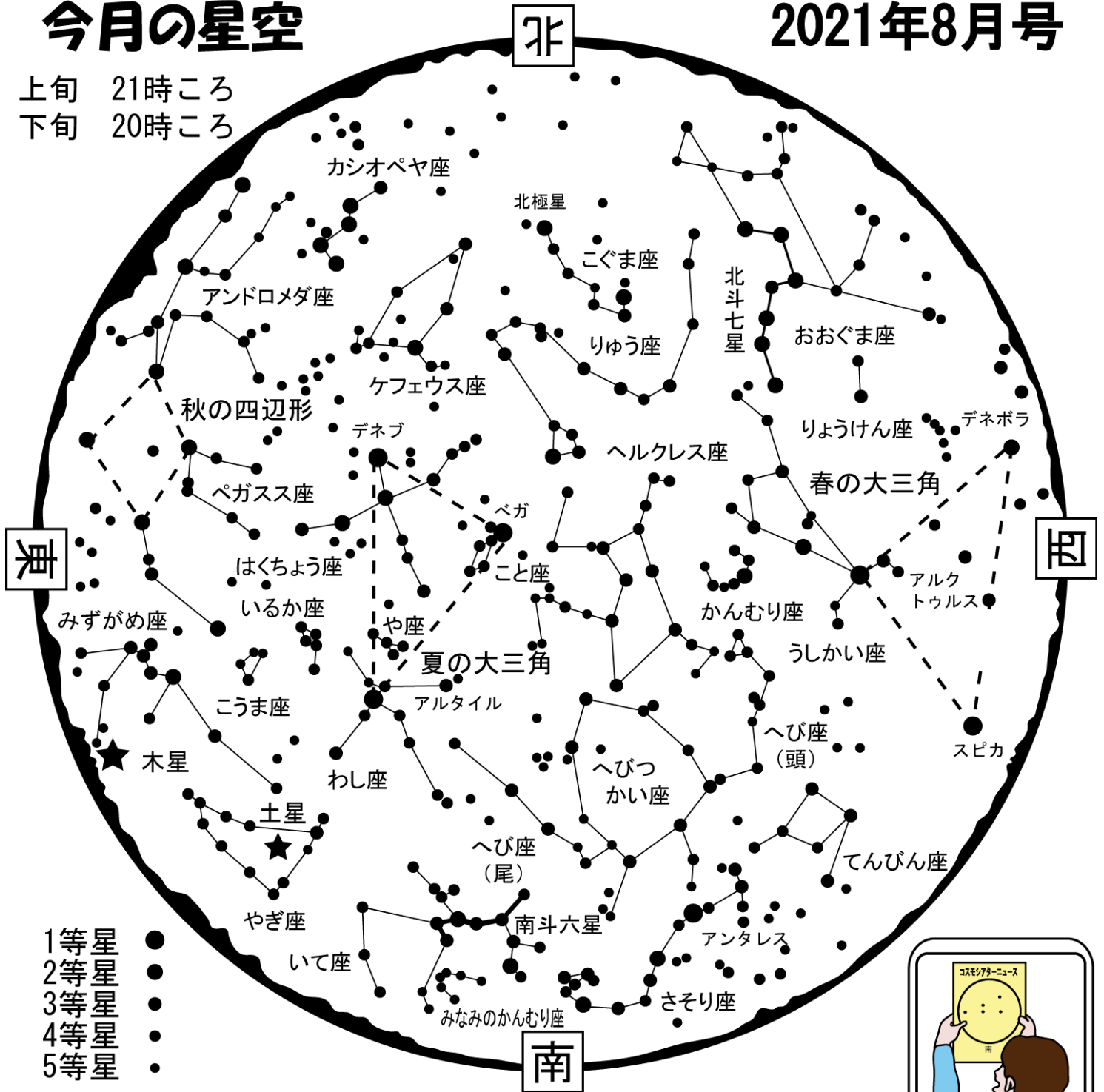


コスモシアターニュース

今月の星空

2021年8月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



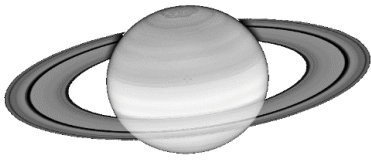
水星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しいでしょう。
金星：夕方、西の低い空に見えます。明るさは-4等星です。11日に月と並んで輝きます。
火星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しいでしょう。
木星：20時~21時ころ、東南東の低い空に見えます。明るさは-3等星です。
土星：宵の南東の空に見えます。明るさは0.5等星です。



今月の月の満ち欠け

新月：8日(日) 上弦：16日(月) 満月：22日(日) 下弦：30日(月)

2 日(月)土星が衝

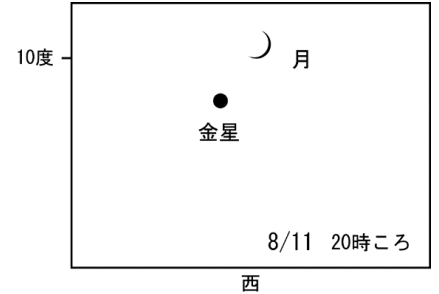


土星は、地球からリングが見える惑星として知られています。この土星が、2 日(月)に衝(しょう)となり、観測の好機を迎えます。衝は、地球より外側を回る惑星が、太陽と反対側に来る時を言います。この時は、日の入りころ昇り、一晩中夜空に輝きます。そして、地球から最も近くなり、観測しやすくなるのです。

土星は肉眼で普通の星にしか見えませんが、天体望遠鏡を使うと、リングが見えてきます。左の図は、天体望遠鏡で見た衝のころの土星の姿です。コスモシアターの11月ころまでの観望会で、天体望遠鏡で実際に土星リングを見ることができます。興味のある方はぜひご参加ください。

11 日(水)、西の空で、月と金星並んで輝く

空が暗くなり始める20時ころ、西の低い空に三日月が輝いています。この三日月のすぐ左下に輝くのが、金星です。右の図のように、高さが低いので見つけにくいかもしれませんが、天気恵まれれば簡単に見つかるはず。ただし、見晴らしがいい所でないといけないので、西の方向に障害物がないところで観察してください。

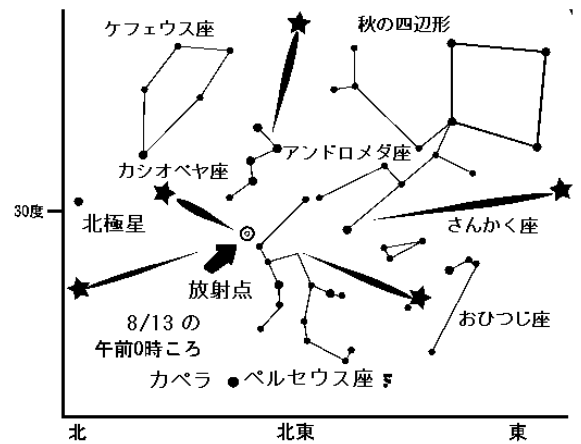


13 日(金)、明け方、ペルセウス座流星群が極大

8月中旬、ペルセウス座流星群と呼ばれる、たくさんの流星を見ることができます。今年のペルセウス座流星群は、12日(木)の深夜から13日(金)の未明に極大(いちばん多くなる時)となり、右の図のように流れます。ただし、ペルセウス座に流れるというわけではなく、ペルセウス座の方向から全天に向けて流れるように見えるだけです。

今年は、夜半前に月が沈み、月明かりがなく、絶好の条件です。また、明るい流星が多いので、松山市内でも流星を見ることができます。

流星が多くなるのは、ペルセウス座が空高く昇る、12日の21時以降です。見ごろは、13日の午前0時ころから午前4時ころになります。このころは、松山市内では、1時間に20個程度、空の暗い郊外の場合、1時間あたり50個以上見えるようになります。なお、前日の11日(水)の深夜と翌日の13日の深夜も、ある程度の流星を見ることができます。

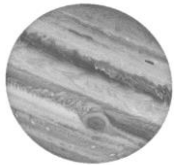


20 日(金)、木星が衝 木星が20日(金)に衝となり、観望の好機となります。今月、木星の明るさは-3等星、

1等星の40倍くらい明るく輝き、すぐに見つかるでしょう。

木星は、肉眼で見ると普通の明るい星にしか見えません。しかし、天体望遠鏡を使うとしま模様が見えてきます。また、目玉のような大赤斑(だいせきはん)と呼ばれる、模様も見ることがあります。

なお、コスモシアターで実施する11月ころまでの星空観望会で見るすることができます。ご覧になりたい方は、ぜひご参加ください。



20 日(金)~22 日(日)、南東の空で、月と土星、木星が並んで輝く

20日(金)の20時ころ、ほぼまん丸の明るい月が南東の空に輝いています。この月の左側に見える星が、土星です。土星は1等星より明るいのですが、月がまぶしいほど明るいので、注意深く探してください。そして、翌日の21日(土)の20時ころには、月が土星の下に移動します。また、月の左側に少し離れて、明るい木星が見えているでしょう。木星は大変明るいので、すぐに分かるはず。月と木星の最接近は、22日(日)になります。月の昇る時刻が少し遅くなるので、21時ころに南東から東の空を見ると、月のすぐ上に木星が見えているでしょう。

天の川を見よう

8月は天の川が見やすい時期です。天の川は、雲のようにぼんやりし、街の明かりがあると見えなくなってしまいます。また、月が輝いている時も見えません。8月は8日が新月ですので、12日ころまでが見ごろとなります。見やすい時間は、21時以降で、真夜中ころまで続きます。

人間の目は暗い所に行くと、すぐには暗闇に慣れません。ですから、明るい部屋の中から急に外に出ても、天の川が見えないのです。最低でも5分くらいは、夜空を眺めて下さい。すると見えなかった天の川も見えてきます。右の図は、8月初めの21時ころの様子です。雲のようにぼんやりとしたものが天の川です。実際の天の川は、南の空にある部分が一番明るく見えます。ちょうどさそり座のしっぽ方向です。そして、天の川をさかのぼって頭上を見ると、夏の大三角があります。空の暗い郊外で観察すると、カシオペア座まで天の川が続いているのが分かるでしょう。

